

## ふるさと名品オブ・ザ・イヤーとは

内閣府・農林水産省、経済産業省後援のもと、民間企業などが独自の切り口による部門提供者として推進し、地域の名品とそれを支えるストーリーを応援する表彰制度。この制度においてリクルートジョブズは、「地方創生を担う働き手を確保するには、主婦やシニアなどの多様な方が働ける環境をつくる」ことが重要」との考えから、「主婦やシニアの方の活躍創出部門」を提供。2018年度にエントリーいただいた、地方創生に貢献する全国各地9事業者の人材・名品取り組みについてご紹介します。

## 新境地を拓き次世代へ！ 日本伝統の「帆前掛け」

有限会社エニシング  
(東京都港区)



▲伝統的な「帆前掛け」は、紅白の腰ひも、ほつれを防ぐ生地両端の「ミミ」、しめ飾りなどをモチーフにした裾の「フサ」が特徴。エニシングでは、高価なため姿を消していた最高級の前掛け生地「1号」を復活させ、オーダー前掛けに使用。世界に1つのデザインで1枚から注文でき、ギフトや記念品として個人のほか有名企業からのオファーも殺到中

▼東京のオフィスで経理を担当する野村陽子さんは一児の母。「前掛けを広める夢のある活動と、柔軟な勤務条件に惹かれて入社しました」



### 有限会社エニシング

東京都港区元赤坂1-7-10 グランドメゾン元赤坂902  
TEL 03-5843-0247  
＜事業内容＞帆前掛けの企画製造販売  
<http://www.anything.ne.jp/index.html>

**職人、若者、主婦など、多様な人が夢を持って働ける**  
現在、豊橋の織物工場では、20〜30代のエニシング社員が地元元のベテラン職人のもとで技術を学びつつ、前掛け生地を生産。一方、女性が多岐にわたる東京のオフィスは、女性の活躍が印象的な職場です。中でも注文受付や商品発送を担当する歴代スタッフは主婦が多く、出勤は週2回、勤務時間は9時30分〜14時、連絡事項を共有するルールを設けるなど、さまざまな体制・工夫で働くママをサポート。どのスタッフも「日本伝統の帆前掛けを次世代に伝え、世界に広めたい」という夢に向かっていきいきと働いています。



▲代表取締役社長の西村和弘さんは大学在学中にアメリカ留学を経験。「海外の文化を感じる環境の中で“和”への意識が高まるようになりました」。大手食品メーカーに就職後、27歳で独立・起業し、漢字Tシャツの企画販売を開始。やがて伝統的な「帆前掛け」に出会い、その魅力を後世に伝えるべく全国・世界へ発信している

### オンラインワンの喜びで新たなニーズをつかみ、販路を拡大

かつて作業着として親しまれていた前掛けは、正式には「帆前掛け（ほまえかけ）」と呼ばれ、屋号を染め抜くことで広告宣伝も兼ねる実用品でした。しかし時代の変化で広告手段はテレビなどに変わり、前掛けの需要は激減。前掛け生地の主要産地の一つである愛知県豊橋市も、織物工場が次々と廃業。そんな中、東京の有限会社エニシングの代表取締役社長・西村和弘さんは数少ない豊橋の職人に直接掛け合い、最高級生地のオーダー前掛けを1枚から生産する体制を整えました。同社の前掛けはギフトのほか有名企業の記念品などで人気を博し、販路を拡大。海外からも熱い注目を浴びています。

リクルートジョブズのサイトにて詳細をご紹介します。 <https://www.recruitjobs.co.jp/furusato/>

